

第 29 号の刊行にあたって

学 園 長 近 藤 博 彦

鯉淵学園農業栄養専門学校は、全国各地から入学する学生を対象に、わが国の農業を担う実践者や健康的な食生活の推進者などを育成する教育機関である。また、農業および食生活に関する新しい技術や手法を実用化するための調査・研究を行う試験研究機関でもある。

鯉淵学園農業栄養専門学校を経営する(財)農民教育協会は「教育、科学の振興、社会福祉への貢献等の公益性の高い事業を行う特定公益法人」の認可を受けており、調査・研究を行う試験研究機関としての責務を果たす必要がある。

この鯉淵学園教育研究報告は、学園関係者の調査・研究の成果と関連する解説等を公表するとともに、学園教育研究事業の記録を残し学園活動を広報することを目的としている。とくに、調査・研究の成果に関する論文については、審査を経た未発表論文を原則としており、わが国の農業の発展や食生活の改善に貢献することをめざしている。この研究報告は、年1回刊行し、関係機関、大学・試験研究機関および学生保護者などに広く配布している。

近年、社会人の農と食に関する関心が高くなり、農業や農産加工技術の習得を目指す短期研修生が増加している。また、有機農業や食生活と介護の関係に関心を持つ学生もいることから、こうした学生・研修生に対する対応の必要性もあってか、本年の調査・研究の範囲は、食品の構造と機能、食料に係る歴史教科書の国際比較、介護サービスの経済効果など幅広い内容となっている。また、こうした取り組みとの関連で意義がある活動については「教育事業ノート」として収録した。

学園の日常的な教育・研究活動の充実に努めているつもりであるが、この研究報告が外に開かれた情報発信の一端を担い、その役割を果たせるように、関係者各位のご指導、ご助言をお願いしたい。